

岩手県一関市埋蔵文化財発掘調査報告書第43集

# 市内遺跡試掘調査報告書

— 平成30年度から令和元年度まで —

令和7年3月

一関市教育委員会

## 序

一関市には、900を超える埋蔵文化財包蔵地が所在しています。市内で行われる開発行為が埋蔵文化財包蔵地の範囲内で実施される場合には、事業者と協議し、試掘調査や工事立会を実施しています。その中で遺構・遺物を確認した場合には、緊急発掘調査を実施することを通じて、埋蔵文化財の保護を行っています。

しかし、そうした調査を報告書という形で記録を残すことについては、完全に実施できていたわけではありませんでした。そこで、今回は平成30年度から令和元年度までに実施した試掘調査の記録を報告書にまとめることといたしました。これまで市教育委員会が実施してきた調査内容を後世に伝え、埋蔵文化財の保護をさらに推進していきたいと考えております。

本報告書により、調査成果を広く公開し、市民並びに全国の方々にも当市の文化財を知って頂き、関心が高まることを期待するとともに、地域のルーツを紐解いていくことが、より良い地域づくりの一助になれば望外の喜びです。

結びに、調査に際してご協力を頂きました地権者、地域住民の皆さまをはじめ多くの方々に衷心より感謝を申し上げます。

令和7年3月

一関市教育委員会  
教育長 時 枝 直 樹

## 例 言

- 1 本書は、岩手県一関市教育委員会が平成30年度から令和元年度までに実施した市内遺跡試掘調査の報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業及び県補助事業を活用した。
- 3 調査主体は、一関市教育委員会教育長小菅正晴（平成30年度～令和元年度）であり、現地調査は文化財課が担当した。また、岩手県教育委員会の協力を得た。
- 4 調査体制は以下のとおり。

（平成30年度）

一関市教育委員会文化財課	教育部次長兼文化財課長	佐藤武生
	文化財係長	坂本光司
	学芸員	菅原孝明
	文化財調査研究員	二階堂里絵

（令和元年度）

一関市教育委員会文化財課	教育部次長兼文化財課長	千葉浩
	課長補佐兼文化財係長	坂本光司
	主任学芸員	菅原孝明
	文化財調査研究員	山川純一
		光井文行

- 5 本書の作成は令和6年度の文化財課が行った。体制は以下のとおりである。

一関市教育委員会事務局文化財課	副参事兼文化財課長	氏家克典
	課長補佐兼文化財係長	金野修
	学芸主査	菅原孝明
	文化財調査研究員	千葉孝弥
		菅原わかな
	会計年度任用職員	小岩誠也

- 6 本書に使用した地形図は、一関市長の承認を得て、測量成果を使用したものである（許可番号令和7年2月12日総第11004号）。
- 7 土層断面図の土色表示は、新版標準土色帖2002年度版（日本色研事業株式会社）を用いている。

## 目 次

序 .....	1
例言 .....	3
目次 .....	4
遺跡地図 .....	5
I 平成30年度調査 .....	6
II 令和元年度調査 .....	24

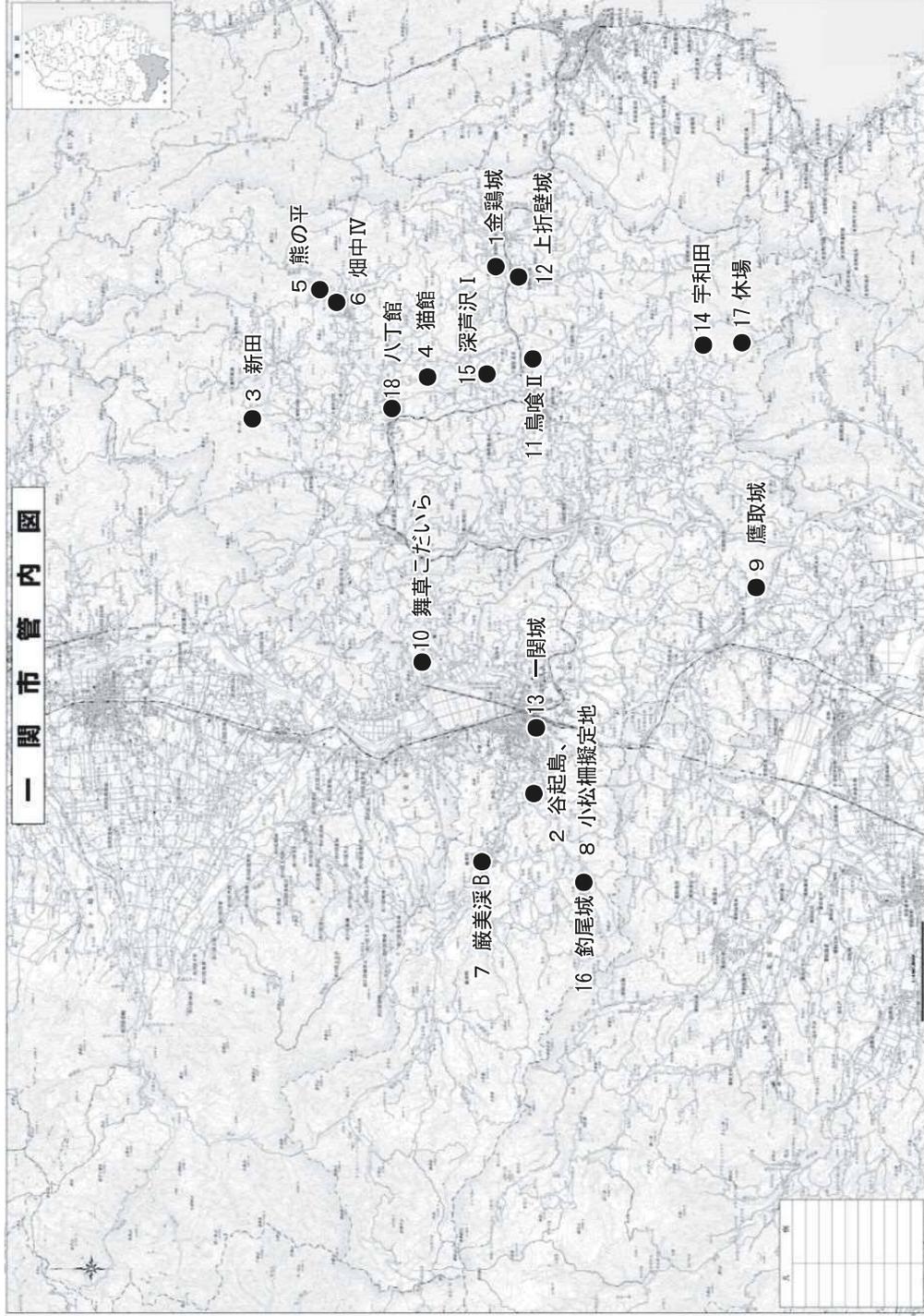


図1 遺跡地図（番号は本文中の遺跡と対応）

## I 平成30年度調査

### 1 金鷄城遺跡（曲館・西城・下折壁城）

- |         |  |
|---------|--|
| 1 所在地   | 一関市室根町折壁字聖沢18-1  |
| 2 調査期日  | 平成30年5月11日   |
| 3 調査者   | 学芸員 菅原孝明 文化財調査研究員 畠山篤雄、二階堂里絵   |
| 4 遺跡の種類 | 城館跡（中世）  |
| 5 遺跡の現状 | 宅地   |
| 6 工事主体者 | 個人   |
| 7 工事の目的 | 物置設置工事（GL-15cm）  |
| 8 調査方法  | トレンチ1か所（長さ8m×幅1m）を設定し、人力による掘削で平面・断面を観察した。                                    |
| 9 調査結果  | 地表面から約80cm掘削した。水成堆積層、造成層、溝1条を確認したが、いずれも昭和期のものであり、城館が機能していた時代の遺構・遺物は確認できなかった。 |
- (1) 基本層序
- I層：表土。暗褐色シルト。炭化物含む。粘性あり。しまりなし。草の根多く入る。層厚8cm。
  - II層：耕作土。暗褐色シルトににぶい黄褐色粘土が混じる。炭化物含む。粘性あり。しまりなし。層厚10cm。
  - III層：造成土1。暗褐色砂質シルト。白い砂粒（花崗岩）多く含む。炭化物少量含む。粘性あり。しまりややなし。層厚28cm。
  - IV層：造成土2。暗褐色砂質シルト。炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。層厚28cm。
  - V層：水成堆積土。暗褐色砂質シルトと黒い筋状の層（砂鉄の集積）がラミナ状に積み重なる。炭化物少量含む。粘性なし。しまりあり。層厚30cm以上。
  - 1a：溝上層。暗褐色砂質シルトににぶい黄褐色粘土塊（径5～10cm）が均一に30～50%混じる。炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
  - 1b：溝下層。にぶい黄褐色粘土塊主体で暗褐色砂質シルトが少量混じる。上面と下面に鉄分が集積して赤い。炭化物少量含む。粘性強い。しまりあり。
- (2) 検出遺構 溝1条
- (3) 出土遺物 鉄製品1点（重機のキャタピラ片）
- (4) 時代 現代
- (5) その他 なし



図2 金鶏城試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)

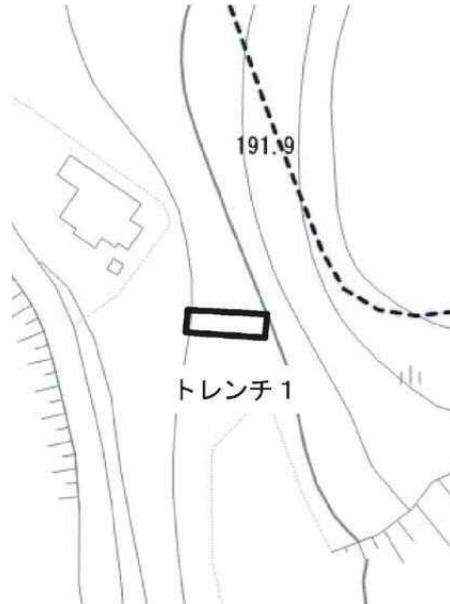


図3 金鶏城トレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真1 人力による掘削状況



写真2 トレンチ1全景



写真3 トレンチ1北側断面



写真4 キャタピラ片出土状況

## 2 谷起島遺跡

- |          |  |
|----------|--|
| 1 所在地    | 一関市萩荘字谷起島南方73  |
| 2 調査期日   | 平成30年6月19日   |
| 3 調査者    | 学芸員 菅原孝明 文化財調査研究員 畠山篤雄、二階堂里絵   |
| 4 遺跡の種類  | 散布地（縄文、弥生）   |
| 5 遺跡の現状  | 宅地   |
| 6 工事主体者  | 個人   |
| 7 工事の目的  | 個人住宅新築工事   |
| 8 調査方法   | トレンチ1か所（約13㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。  |
| 9 調査結果   | 現地表下70cmまで掘削したが、攪乱層が続く。攪乱層から近代以降の磁器片やプラスチック片が出土した。遺構は確認できなかった。   |
| (1) 基本層序 | I層：表土。黄褐色粗砂。客土。層厚約10cm。<br>II層：攪乱 黒褐色シルトににぶい黄褐色粘土が混じる。アスファルト、ビニール等のゴミが多く混じる。層厚20～60cm。<br>III層：旧表土。黒褐色シルト。混じりのない土。炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。層厚約10～20cm。<br>IV層：自然堆積層。暗褐色シルト。炭化物少量含む。混じりのない土。炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。層厚約10cm。<br>V層：地山漸移層。上方に黒褐色砂質シルト、下方ににぶい黄褐色シルトが多く混じり合う土。炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。層厚約20cm。<br>VI層：地山1。にぶい黄褐色シルトに砂質分多く入る。粘性あり。硬くしまりあり。層厚約10cm。<br>VII層：地山2。にぶい黄褐色シルトと暗褐色シルトが混じる土に大小の礫が多量に入る。層厚不明。 |
| (2) 検出遺構 | なし   |
| (3) 出土遺物 | 磁器片、プラスチック片  |
| (4) 時代   | 近代以降   |
| (5) その他  | なし   |
| 10 取り扱い  | 今回の工事による遺跡への影響は少ないと考えられるため、平成30年6月20日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、6月27日付教文第03015文書により慎重工事を指示した。   |



図4 谷起島試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)

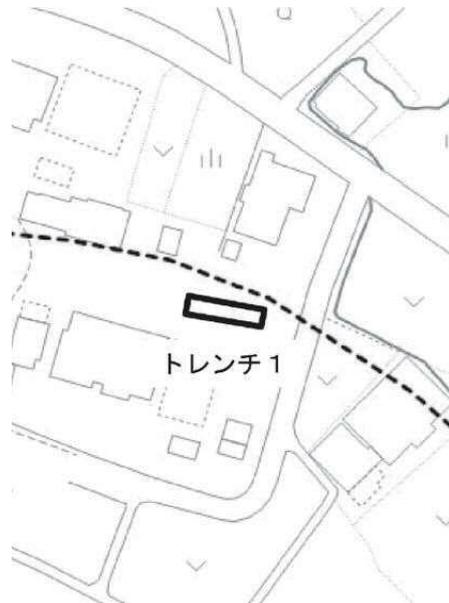


図5 谷起島トレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真5 調査区全景



写真6 トレンチ1全景



写真7 トレンチ1南壁断面



写真8 出土遺物

### 3 新田遺跡

- |         |  |
|---------|--|
| 1 所在地   | 一関市大東町沖田字新田50-4  |
| 2 調査期日  | 平成30年6月25日   |
| 3 調査者   | 文化財調査研究員 二階堂里絵   |
| 4 遺跡の種類 | 散布地（縄文）  |
| 5 遺跡の現状 | 畑地   |
| 6 工事主体者 | 個人   |
| 7 工事の目的 | 個人住宅新築工事に伴う造成工事（GL-90cm）   |
| 8 調査方法  | トレンチ2か所（東西それぞれ長さ6m×幅1.5m、18㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。                                  |
| 9 調査結果  | 西トレンチ北端部では地表面から約50cmの深さで地山を確認したが、それ以外の場所では地山を確認できなかった。過去の造成で地形が改変されたとみられる。遺物は確認できなかった。 |
- (1) 基本層序（西トレンチ）
- I層：表土。黒褐色シルト。草の根多く入る。層厚5cm。
  - II層：耕作土。黒褐色シルト。層厚15cm。
  - III層：造成層。黒褐色シルトに黒褐色シルトが混じる。ガンズリが多量に入る。層厚25cm以上。
  - IV層：地山。にぶい暗褐色シルト。硬い。層厚不明。
- |          |    |
|----------|----|
| (2) 検出遺構 | なし |
| (3) 出土遺物 | なし |
| (4) 時代   | 現代 |
| (5) その他  | なし |
- 10 取り扱い
- 遺構・遺物は確認できなかったため、平成30年7月2日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、7月3日付教文第04002号文書により慎重工事を指示した。



図6 新田試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)



図7 新田トレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真9 調査区全景



写真10 西トレンチ南西壁断面



写真11 西トレンチ南西壁西端部



写真12 東トレンチ北東壁断面

## 4 猫館遺跡

- 1 所在地 一関市大東町曾慶字猫館69-3
- 2 調査期日 平成30年6月28日
- 3 調査者 文化財調査研究員 二階堂里絵
- 4 遺跡の種類 城館跡（中世）
- 5 遺跡の現状 畑地
- 6 工事主体者 個人
- 7 工事の目的 個人住宅新築工事
- 8 調査方法 トレンチ1か所（長さ7m×幅2m、14㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。
- 9 調査結果 地表面から15cmの深さで地山に達し、その上面で柱穴とみられるピット1基、土坑2基、溝2条を確認した。遺物は出土していないが、中世の遺構である可能性がある。
  - (1) 基本層序 I層：表土。層厚5cm。  
II層：耕作土。層厚10cm。  
III層：地山。層厚不明。
  - (2) 検出遺構 ピット1基、土坑2基、溝2条
  - (3) 出土遺物 なし
  - (4) 時代 不明（中世か）
  - (5) その他 なし
- 10 取り扱い 遺構確認後、施主と協議を実施したが、工事の変更はできず遺跡の破壊は免れないとの結論に達した。

そこで、7月3日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、7月5日付教文第04004号文書により工事着手前の発掘調査を指示し、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

なお、発掘調査の詳細については、『岩手県一関市埋蔵文化財発掘調査報告書第25集平成28・30年度一関市内遺跡発掘調査報告書』（一関市教育委員会、平成31年3月）を参照していただきたい。



図8 猫館試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)



図9 猫館トレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真13 トレンチ1全景



写真14 トレンチ1西壁断面南端部

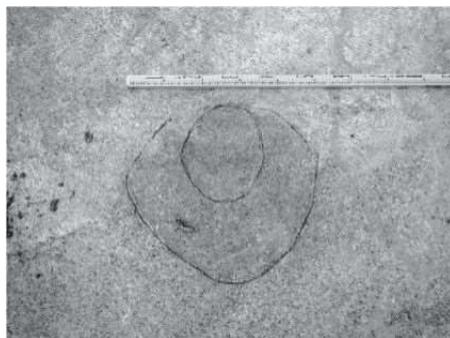


写真15 柱穴 (直径約50cm)



写真16 溝2条

## 5 熊の平遺跡

- 1 所在地 一関市大東町大原字熊ノ平63-1、63-2、63-3
- 2 調査期日 平成30年11月26日
- 3 調査者 文化財調査研究員 二階堂里絵
- 4 遺跡の種類 集落跡（縄文、弥生、古代）
- 5 遺跡の現状 水田
- 6 工事主体者 一関東部土地改良区
- 7 工事の目的 活力ある中山間地域基盤整備事業（暗渠設置工事）
- 8 調査方法 トレンチ1か所（長さ19m×幅1.8m、約34㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。
- 9 調査結果 黒褐色土層上面で遺構の有無を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。
  - (1) 基本層序 I層：耕作土。層厚20cm。  
II層：造成攪乱層。層厚20cm。  
III層：黒褐色シルト層。層厚10cm。  
IV層：地山。にぶい黄褐色シルト層。層厚不明。
  - (2) 検出遺構 なし
  - (3) 出土遺物 なし
  - (4) 時代 現代
  - (5) その他 なし
- 10 取り扱い 遺構・遺物は確認できなかったため、11月29日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、12月3日付教文第09001号文書により慎重工事を指示した。



図10 熊の平試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)

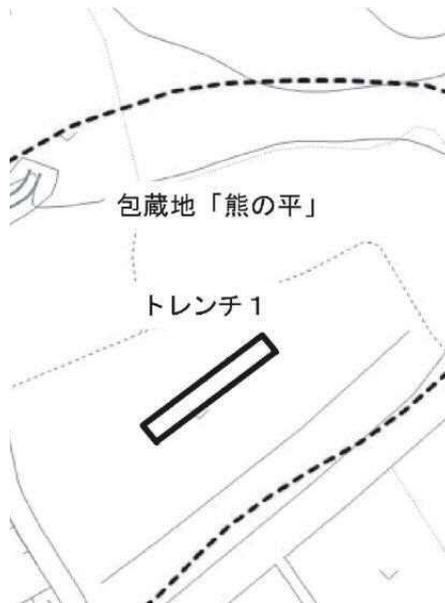


図11 熊の平トレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真17 調査前状況



写真18 トレンチ1全景



写真19 トレンチ1南壁



写真20 トレンチ1南壁東端部

## 6 畑中IV遺跡

- |         |   |
|---------|---|
| 1 所在地   | 一関市大東町大原字堀ノ内32  |
| 2 調査期日  | 平成30年11月26日   |
| 3 調査者   | 文化財調査研究員 二階堂里絵  |
| 4 遺跡の種類 | 散布地（縄文）   |
| 5 遺跡の現状 | 水田  |
| 6 工事主体者 | 一関東部土地改良区   |
| 7 工事の目的 | 活力ある中山間地域基盤整備事業（暗渠設置工事）   |
| 8 調査方法  | トレンチ2か所（長さ10m×幅1.8m×2本、36㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。   |
| 9 調査結果  | 水田耕作土層及び水田造成（攪乱）層の下には自然堆積とみられる砂礫層が厚く堆積している。この砂礫層は旧河道の堆積土とみられる。遺構、遺物は確認できなかった。<br>(1) 基本層序（東・西トレンチとも同じ）<br>I層：耕作土。層厚30cm。<br>II層：造成（攪乱）層。層厚15cm。<br>III層：青灰色砂礫層。層厚不明。<br>(2) 検出遺構 なし<br>(3) 出土遺物 なし<br>(4) 時代 現代<br>(5) その他 なし |
| 10 取り扱い | 遺構・遺物は確認できなかったため、11月29日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、12月3日付教文第09001号文書により慎重工事を指示した。   |



図12 畑中Ⅳ試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)

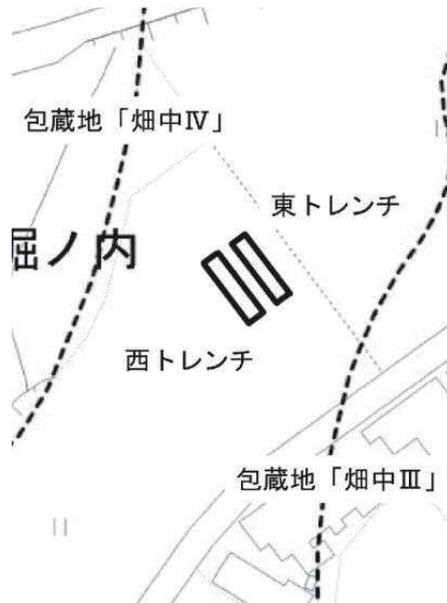


図13 畑中Ⅳトレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真21 調査前状況



写真22 東トレンチ全景



写真23 東トレンチ東壁北端部



写真24 西トレンチ全景

## 7 巖美溪B遺跡

- 1 所在地 一関市巖美町字樋ノ口81-5
- 2 調査期日 平成30年12月10日
- 3 調査者 文化財調査研究員 二階堂里絵
- 4 遺跡の種類 散布地（縄文）
- 5 遺跡の現状 原野
- 6 工事主体者 個人
- 7 工事の目的 個人住宅新築工事
- 8 調査方法 トレンチ1か所（長さ8m×幅1.4m、約11㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。
- 9 調査結果 地表面から70cm掘った黄褐色砂層上面で遺構の有無を確認したが、遺構は確認できなかった。遺物は、現代のタイル、コンクリート、水道管を確認したが、縄文時代の遺物は確認できなかった。
  - (1) 基本層序 I層：造成攪乱層1。層厚40cm。  
II層：造成攪乱層2。層厚30cm。  
III層：黄褐色砂層。層厚40cm。  
IV層：にぶい黄褐色砂礫層。層厚不明。
  - (2) 検出遺構 なし
  - (3) 出土遺物 タイル、コンクリート、水道管
  - (4) 時代 現代
  - (5) その他 なし
- 10 取り扱い 遺構・遺物は確認できなかったため、12月12日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、12月13日付教文第09011号文書により慎重工事を指示した。



図14 蔽美溪B試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)



図15 蔽美溪Bトレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真25 調査前状況



写真26 トレンチ1全景



写真27 トレンチ1西壁



写真28 トレンチ1西壁断面

## 8 小松柵擬定地遺跡

- |          |  |
|----------|--|
| 1 所在地    | 一関市萩荘字谷起島南方40-7  |
| 2 調査期日   | 平成30年12月10日  |
| 3 調査者    | 文化財調査研究員 二階堂里絵   |
| 4 遺跡の種類  | 城館跡（古代）  |
| 5 遺跡の現状  | 原野   |
| 6 工事主体者  | 個人   |
| 7 工事の目的  | 個人住宅新築工事   |
| 8 調査方法   | トレンチ1か所（長さ5m×幅1m、5㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。   |
| 9 調査結果   | 地表面から60cm掘った地山層上面で遺構の有無を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。  |
| (1) 基本層序 | I層：表土。層厚20cm。<br>II層：旧表土。層厚10cm。<br>III層：黒褐色シルト層。層厚20cm。<br>IV層：地山漸移層。層厚10cm。<br>V層：地山。大小の礫が多数入る。層厚不明。 |
| (2) 検出遺構 | なし   |
| (3) 出土遺物 | なし   |
| (4) 時代   | 現代   |
| (5) その他  | なし   |
| 10 取り扱い  | 遺構・遺物は確認できなかったため、平成31年1月15日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、1月18日付教文第10006号文書により慎重工事を指示した。                              |



図16 小松柵擬定地試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)



図17 小松柵擬定地トレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真29 調査前状況



写真30 掘削状況



写真31 トレンチ1全景



写真32 トレンチ1北壁東端部

## 9 鷹鳥城遺跡（男沢城）

- |         |   |
|---------|---|
| 1 所在地   | 一関市花泉町老松字館平82   |
| 2 調査期日  | 平成31年1月21日  |
| 3 調査者   | 学芸員 菅原孝明 文化財調査研究員 二階堂里絵   |
| 4 遺跡の種類 | 城館跡（中世）   |
| 5 遺跡の現状 | 畑地  |
| 6 工事主体者 | 個人  |
| 7 工事の目的 | 個人住宅新築工事  |
| 8 調査方法  | トレンチ1か所（長さ5m×幅1.7m、約8㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。   |
| 9 調査結果  | 地表面から30cm掘った地山層上面で遺構の有無を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。<br>(1) 基本層序 I層：耕作土。層厚30cm。<br>II層：地山。層厚不明。<br>(2) 検出遺構 なし<br>(3) 出土遺物 なし<br>(4) 時代 現代<br>(5) その他 なし |
| 10 取り扱い | 遺構・遺物は確認できなかったため、平成31年1月29日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、1月31日付教文第10021号文書により慎重工事を指示した。   |



図18 鷹鳥館試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)



図19 鷹鳥館トレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真33 調査前状況



写真34 掘削状況



写真35 トレンチ1全景



写真36 トレンチ1東壁北端部

## II 令和元年度調査

### 10 舞草こだいら遺跡

- |          |   |
|----------|---|
| 1 所在地    | 一関市舞川字大平92-2  |
| 2 調査期日   | 令和元年5月8日  |
| 3 調査者    | 文化財調査研究員 山川純一、光井文行  |
| 4 遺跡の種類  | 生産遺跡(近世)  |
| 5 遺跡の現状  | 畑地  |
| 6 工事主体者  | 個人  |
| 7 工事の目的  | 個人住宅新築工事(GL-50cm)   |
| 8 調査方法   | トレンチ3か所(長さ7m×幅1m×2本、長さ8.5m×幅1m×1本、約23㎡)を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。   |
| 9 調査結果   | 地表面から約50cm掘り下げたが、遺構・遺物は確認できなかった。  |
| (1) 基本層序 | I層：表土。10YR3/2黒褐色シルト層。粘性なし。しまり強。径5cm以下の礫を微量含む。層厚15～25cm。<br>II層：造成層。10YR3/3暗褐色粘土質シルト。粘性ややあり。粘性極めて強。径5～15cm大の礫を少量、径1～5mm大の地山粒微量を含む。<br>III層：旧表土。10YR2/2黒褐色粘土質シルト層。粘性強。しまり極めて強。径1cm大の地山粒を中量含む層厚5～15cm。<br>IV層：地山。10YR4/3～10YR4/4にぶい黄褐～褐色シルト層。粘性なし。しまり極めて強。径5～60cm大の礫を極めて多量含む。層厚10cm以上。 |
| (2) 検出遺構 | なし  |
| (3) 出土遺物 | なし  |
| (4) 時代   | 現代  |
| (5) その他  | なし  |
| 10 取り扱い  | 試掘調査の結果を、令和元年5月8日付教文第02006号文書により回答した。遺構・遺物は確認できなかったため、令和元年5月9日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、5月10日付教文第02007号文書により慎重工事を指示した。  |



図20 舞草こだいら試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)



図21 舞草こだいらトレンチ図  
(上が北、S=1:1000)

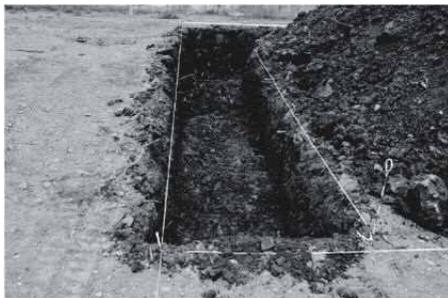


写真37 西トレンチ完掘状況

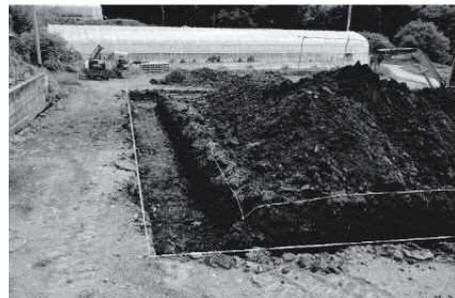


写真38 北トレンチ完掘状況



写真39 東トレンチ完掘状況



写真40 東トレンチ西壁

## 11 鳥喰Ⅱ遺跡

- |          |  |
|----------|--|
| 1 所在地    | 一関市千厩町清田字要害58-1  |
| 2 調査期日   | 令和元年5月14日～16日  |
| 3 調査者    | 文化財調査研究員 山川純一、光井文行   |
| 4 遺跡の種類  | 散布地（縄文）  |
| 5 遺跡の現状  | 畑地   |
| 6 工事主体者  | 株式会社グリーンシステムコーポレーション   |
| 7 工事の目的  | 太陽光パネル設置工事（GL-150cm）   |
| 8 調査方法   | 事業計画地を囲うように調査区（約244㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。  |
| 9 調査結果   | 地表面から約50cm掘り下げたが、遺構・遺物は確認できなかった。   |
| (1) 基本層序 | I a層：表土。10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト層。粘性強。しまりやや弱。草根密生。層厚5～10cm。<br>I b層：耕作土。10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト層。粘性強。しまり中。明瞭な混入物なし。層厚20～40cm。<br>II a層：地山（岩盤風化土上層）。10YR5/6～10YR7/4黄褐色～にぶい黄橙色粘土質シルト層。粘性極めて強。しまり強。基盤岩（花崗岩）起源の雲母細片を多量に含む。層厚5 cm以上。<br>II b層：地山（岩盤風化土上層）。10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト層。粘性なし。しまり強。10YR4/1褐灰色砂質シルト粒および基盤岩（花崗岩）起源の雲母細片を多量に含む。層厚5 cm以上。 |
| (2) 検出遺構 | なし   |
| (3) 出土遺物 | なし   |
| (4) 時代   | 現代   |
| (5) その他  | なし   |
| 10 取り扱い  | 試掘調査の結果を、令和元年5月17日付教文第02012号文書により回答した。遺構・遺物は確認できなかったため、令和元年5月18日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、5月21日付教文第02014号文書により慎重工事を指示した。   |



図22 鳥喰Ⅱ試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)

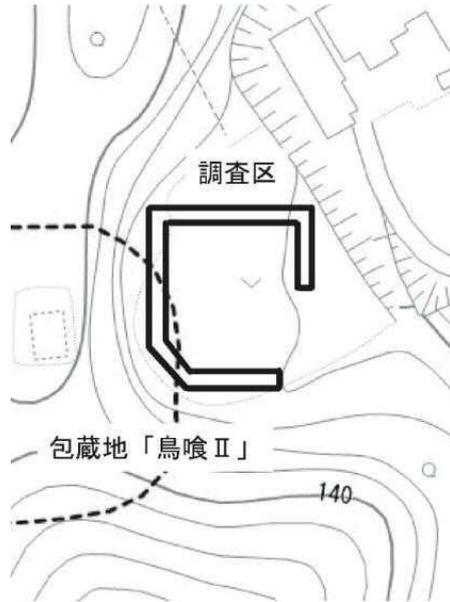


図23 鳥喰Ⅱ調査区図  
(上が北、S=1:1000)



写真41 掘削状況(調査区西辺)



写真42 調査区北辺



写真43 調査区東辺



写真44 調査区西辺西壁断面

## 12 上折壁城遺跡

- |          |   |
|----------|---|
| 1 所在地    | 一関市室根町矢越字千刈田51  |
| 2 調査期日   | 令和元年6月6日  |
| 3 調査者    | 文化財調査研究員 山川純一、光井文行  |
| 4 遺跡の種類  | 城館跡（中世）   |
| 5 遺跡の現状  | 宅地  |
| 6 工事主体者  | 個人  |
| 7 工事の目的  | 個人住宅新築工事  |
| 8 調査方法   | トレンチ3か所（長さ8m×幅1m、24㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。   |
| 9 調査結果   | 地表面から約50cmまで掘り下げたところ、中央トレンチで遺構を確認したことから、調査区を広げた（約90㎡）。柱穴は全体に広がっており、掘立建物跡の存在が考えられる。近世等の陶磁器片や羽口、鉄滓などが出土しており、鍛冶関係の遺構が確認される可能性がある。  |
| (1) 基本層序 | I層：表土。10YR3/2黒褐色シルト層。しまっていない。粘性なし。層厚14～20cm。<br>II層：整地層。10YR3/3暗褐色シルト層。ややしまっている。やや粘性あり。10YR8/7黄橙色粘土質シルトの小ブロック（径0.2～2cm）を全体に含む。炭化物少量含む。層厚12～16cm。<br>III層：地山か。10YR5/6砂質シルト層。かたくしまっている。粘性なし。10YR8/7黄橙色粘土質シルトのブロックが含む範囲は整地層と考えられる。層厚20cm以上。  |
| (2) 検出遺構 | 柱穴、土坑   |
| (3) 出土遺物 | 陶器、磁器、羽口、鉄滓   |
| (4) 時代   | 中世、近世   |
| (5) その他  | なし  |
| 10 取り扱い  | 試掘調査の結果を、令和元年6月11日付教文第03003号文書により回答した。遺構・遺物を確認したため施主と計画変更協議を実施した結果、工事の変更はできず遺跡の破壊は免れないとの結論に達した。<br>そこで、6月14日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、6月19日付教文第03009号文書により工事着手前の発掘調査を指示し、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。<br>なお、発掘調査の詳細については、『岩手県一関市埋蔵文化財発掘調査報告書第28集上折壁城遺跡発掘調査報告書』（一関市教育委員会、令和2年3月）を参照していただきたい。 |



図24 上折壁城試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)



図25 上折壁城調査区図  
(上が北、S=1:1000)



写真45 調査前状況



写真46 掘削状況



写真47 遺構確認状況



写真48 調査区北壁土層断面

## 13 一関城遺跡（高崎城・釣山城）

- |         |  |
|---------|--|
| 1 所在地   | 一関市釣山1-9   |
| 2 調査期日  | 令和元年7月10日、11日                                      |
| 3 調査者   | 文化財調査研究員 山川純一、光井文行                                 |
| 4 遺跡の種類 | 城館跡（中世）  |
| 5 遺跡の現状 | 遊歩道  |
| 6 工事主体者 | 一関市（給水課）   |
| 7 工事の目的 | 配水管敷設替工事（一関市上水道）                                   |
| 8 調査方法  | トレンチ13か所（長さ2m×幅1m、26㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。     |
| 9 調査結果  | 北端のトレンチ1から溝跡、トレンチ2から配石遺構、南端のトレンチ12から柱痕跡のある柱穴を確認した。 |

### （1）基本層序（トレンチ1）

- I a層：表土。碎石。層厚20cm。
- I b層：碎石。層厚15cm。
- II層：10YR3/4暗褐色砂質層。碎石を多く含む。層厚10～18cm。
- III層：10YR3/3暗褐色砂質層。小円礫を多く含む。層厚8～10cm。
- IV層：10YR5/8砂質粗い砂質層。しまっていない。粘性なし。層厚10～20cm。
- V層：10YR5/6砂質シルト層。しまっていない。粘性なし。層厚25～44cm。
- VI層：溝跡埋土。10YR4/2砂質シルト層。しまっている。粘性なし。炭化物を多く含む。層厚不明。

- |         |    |
|---------|----|
| （2）検出遺構 | 溝  |
| （3）出土遺物 | 陶器 |
| （4）時代   | 近世 |
| （5）その他  | なし |
- 10 取り扱い 試掘調査の結果を、令和元年7月23日付教文第04013号文書により回答した。遺構・遺物を確認したため担当課と計画変更協議を実施した結果、1～3トレンチ、11～13トレンチの間で発掘調査、それ以外のトレンチでは工事立会を実施することで合意した。

そこで、7月26日付埋蔵文化財発掘の通知を受理し、7月29日付教文第04019号文書により工事着手前の発掘調査を勧告し、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

なお、発掘調査の詳細については、『岩手県一関市埋蔵文化財発掘調査報告書第30集一関城遺跡発掘調査報告書』（一関市教育委員会、令和3年3月）を参照していただきたい。

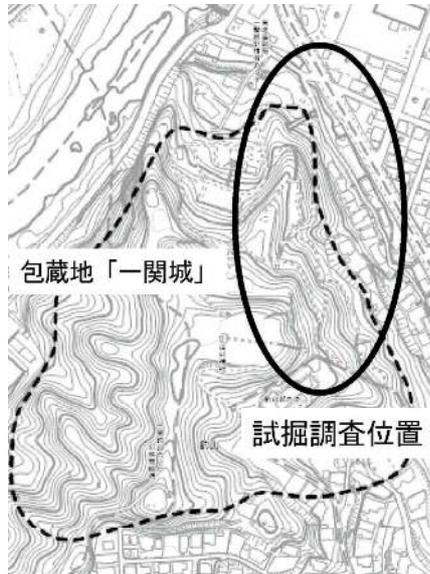


図26 一関城試掘調査位置図  
(上が北、S=1:5000)



図27 一関城トレンチ図  
(上が北、S=1:2500)



写真49 掘削状況



写真50 トレンチ1 (溝跡)



写真51 トレンチ2 (配石遺構)



写真52 トレンチ12 (柱痕跡)

## 14 宇和田遺跡

- |         |  |
|---------|--|
| 1 所在地   | 一関市藤沢町保呂羽字嶺沢20-1   |
| 2 調査期日  | 令和元年7月25日  |
| 3 調査者   | 文化財調査研究員 山川純一、光井文行   |
| 4 遺跡の種類 | 散布地（縄文）  |
| 5 遺跡の現状 | 畑地   |
| 6 工事主体者 | 個人   |
| 7 工事の目的 | 太陽光パネル設置工事   |
| 8 調査方法  | トレンチ9か所（長さ3.6m×幅2m×9本、約64㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。  |
| 9 調査結果  | 地表面から約30cm掘り下げたところ、トレンチ1から縄文時代の遺物包含層、トレンチ6から溝状遺構（陥し穴状遺構）、トレンチ7から竪穴住居跡状遺構を確認した。またトレンチ1から縄文土器片を確認した。 |
- (1) 基本層序（トレンチ1）
- I層：表土。10YR3/3暗褐色シルト層。しまっていない。粘性なし。縄文土器片含む。層厚10～12cm。
  - II層：10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト層。しまっている。やや粘性あり。層厚8～11cm。
  - III層：10YR3/2黒褐色粘土質シルト層。ややしまっている。やや粘性あり。縄文土器片をやや多く含む。層厚6～10cm。
  - IV層：地山。10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト層。しまっている。粘性あり。層厚不明。
- |          |              |
|----------|--------------|
| (2) 検出遺構 | 竪穴住居、溝、遺物包含層 |
| (3) 出土遺物 | 縄文土器片        |
| (4) 時代   | 縄文           |
| (5) その他  | なし           |
- 10 取り扱い 試掘調査の結果を、令和元年7月31日付教文第04020号文書により回答した。遺構・遺物を確認したため施主と計画変更協議を実施した結果、発掘調査の費用負担が難しいことから事業が中止されることとなり、埋蔵文化財に係る手続きは終了した。



図28 宇和田試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)



図29 宇和田トレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真53 調査区東側状況



写真54 トレンチ1南壁断面



写真55 トレンチ6溝状遺構



写真56 トレンチ7竪穴住居

## 15 深芦沢 I 遺跡

- |  |  |
|--|--|
| 1 所在地  | 一関市千厩町奥玉字深芦沢45-1   |
| 2 調査期日   | 令和元年9月10日  |
| 3 調査者  | 文化財調査研究員 光井文行  |
| 4 遺跡の種類  | 散布地（縄文）  |
| 5 遺跡の現状  | 水田   |
| 6 工事主体者  | 個人   |
| 7 工事の目的  | 個人住宅新築工事   |
| 8 調査方法   | トレンチ2か所（トレンチ1長さ14m×幅1.9m、トレンチ2長さ16m×幅1.4m、49㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。                                     |
| 9 調査結果   | 地表面から約50cm掘り下げたが、遺構・遺物は確認できなかった。   |
| (1) 基本層序（トレンチ1）  |  |
| I層：表土。7.5YR4/2灰褐色砂質シルト層。ややしまっている。粘性なし。層厚12～13cm。                       |  |
| II層：7.5YR5/2灰褐色砂質シルト層。ややしまっている。粘性なし。下位に10YR2/2黒褐色シルトブロックを含む。層厚15～17cm。 |  |
| III層：地山。7.5YR4/1灰褐色粘土質シルト層。ややしまっている。粘性あり。層厚18cm。                       |  |
| IV層：地山。7.5YR4/1灰褐色砂質シルト層。かたくしまっている。粘性なし。層厚不明。                          |  |
| (2) 検出遺構   | なし   |
| (3) 出土遺物   | なし   |
| (4) 時代   | 現代   |
| (5) その他  | なし   |
| 10 取り扱い  | 試掘調査の結果を、令和元年9月18日付教文第06009号文書により回答した。遺構・遺物は確認できなかったため、9月18日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、9月20日付教文第06013号文書により慎重工事を指示した。 |



図30 深芦沢 I 試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)

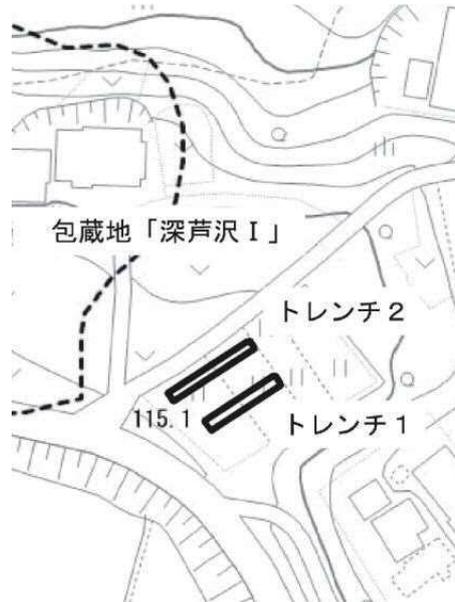


図31 深芦沢 I トレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真57 掘削状況



写真58 トレンチ1全景



写真59 トレンチ2全景



写真60 トレンチ1北東壁断面

## 16 釣尾城遺跡（市野々城）

- |                 |   |
|-----------------|---|
| 1 所在地           | 一関市萩荘字南沢37-20   |
| 2 調査期日          | 令和元年9月17日   |
| 3 調査者           | 文化財調査研究員 光井文行   |
| 4 遺跡の種類         | 城館跡（中世）   |
| 5 遺跡の現状         | 水田  |
| 6 工事主体者         | KDDI株式会社仙台テクニカルセンター   |
| 7 工事の目的         | 携帯電話基地局建設工事   |
| 8 調査方法          | トレンチ2か所（長さ2.7m×幅0.9m、約4㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。   |
| 9 調査結果          | 地表面から約1m掘り下げたが、遺構・遺物は確認できなかった。  |
| (1) 基本層序（トレンチ1） |   |
|                 | I層：表土。10YR3/3暗褐色粘土質シルト層。ややしまっている。粘性あり。層厚10～30cm。  |
|                 | II層：10YR5/1褐灰色粘土質シルト層。ややしまっている。粘性あり。酸化鉄を多く含む。層厚15～30cm。   |
|                 | III層：地山。10YR5/6黄褐色粘土質シルト層。しまっていない。粘性あり。東端や南端では消失。層厚0～15cm。  |
|                 | IV層：地山。10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層。ややしまっている。粘性あり。東端や南端では消失。層厚0～16cm。   |
|                 | V層：地山。10YR4/1褐灰色粘土質シルト質層。ややしまっている。粘性あり。層厚50cm以上。  |
| (2) 検出遺構        | なし  |
| (3) 出土遺物        | なし  |
| (4) 時代          | 現代  |
| (5) その他         | なし  |
| 10 取り扱い         | 試掘調査の結果を、令和元年9月20日付教文第06016号文書により回答した。遺構・遺物は確認できなかったため、令和2年1月30日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、同日付教文第10014号文書により慎重工事を指示した。 |



図32 釣尾城試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)



図33 釣尾城トレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真61 掘削状況



写真62 トレンチ1全景



写真63 トレンチ2全景



写真64 トレンチ1北東壁断面

## 17 休場遺跡

- |                 |   |
|-----------------|---|
| 1 所在地           | 一関市藤沢町大籠字大平37   |
| 2 調査期日          | 令和元年10月24日  |
| 3 調査者           | 文化財調査研究員 光井文行   |
| 4 遺跡の種類         | 散布地（縄文）   |
| 5 遺跡の現状         | 畑地  |
| 6 工事主体者         | 個人  |
| 7 工事の目的         | 太陽光パネル設置工事  |
| 8 調査方法          | トレンチ9か所（長さ10m×幅1.2m×5本、長さ4～7m×幅1.2m×4本、約85㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。  |
| 9 調査結果          | 地表面から約50cm掘り下げたが、遺構・遺物は確認できなかった。  |
| (1) 基本層序（トレンチ3） |   |
|                 | I層：表土。10YR3/4にぶい黄褐色粘土質シルト層。しまっていない。粘性あり。小石（径2～5mm）を少量含む（2%）。層厚20～28cm。  |
|                 | II層：地山。10YR4/4褐色粘土質シルト層。ややしまっている。粘性あり。小石（径2～5mm）を少量含む（1%）。層厚12～14cm。  |
|                 | III層：地山。10YR4/6褐色粘土質シルト層。しまっている。粘性あり。亜角礫（径2～8cm）やや多く含む。層厚不明。  |
| (2) 検出遺構        | なし  |
| (3) 出土遺物        | なし  |
| (4) 時代          | 現代  |
| (5) その他         | なし  |
| 10 取り扱い         | 試掘調査の結果を、令和元年10月29日付教文第07017号文書により回答した。遺構・遺物は確認できなかったため、10月30日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、10月31日付教文第07018号文書により慎重工事を指示した。 |



図34 休場試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)

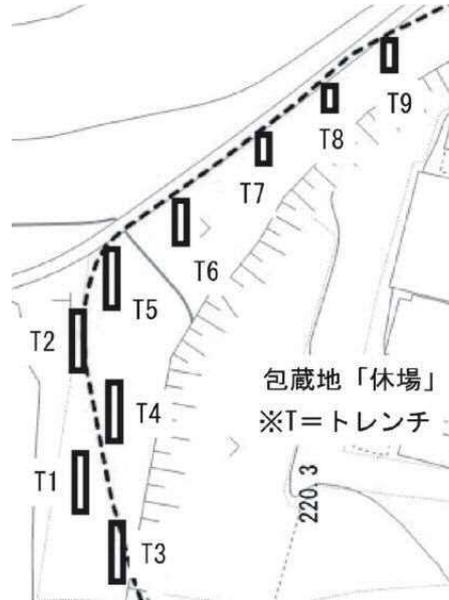


図35 休場トレンチ図  
(上が東、S=1:1000)



写真65 調査区全景



写真66 トレンチ3全景



写真67 トレンチ9全景



写真68 トレンチ3北壁断面

## 18 八丁館遺跡（臥牛館・数流沢城）

- |         |  |
|---------|--|
| 1 所在地   | 一関市大東町摺沢字但馬崎64-8   |
| 2 調査期日  | 令和元年11月20日   |
| 3 調査者   | 文化財調査研究員 光井文行  |
| 4 遺跡の種類 | 城館跡（中世）  |
| 5 遺跡の現状 | 宅地   |
| 6 工事主体者 | 個人   |
| 7 工事の目的 | 個人住宅新築工事   |
| 8 調査方法  | トレンチ3か所（南北トレンチ長さ7m×幅1m×2本、東西トレンチ長さ8m×幅1m×1本、22㎡）を設定し、重機による掘削で平面・断面を観察した。 |
| 9 調査結果  | 地表面から約60cm掘り下げたところ、柱穴、溝を確認した。  |

### （1）基本層序（トレンチ3）

I層：表土（耕作土）。10YR4/3にぶい黄褐色シルト層。しまっていない。

粘性なし。層厚28～30cm。

II層：10YR3/3暗褐色シルト層。ややしまっている。粘性なし。層厚20～

24cm。

III層：地山。10YR5/6黄褐色シルト層。しまっている。粘性なし。層厚不明。

- |         |              |
|---------|--------------|
| （2）検出遺構 | 柱穴（多数）、溝     |
| （3）出土遺物 | なし           |
| （4）時代   | 不明（中世の可能性あり） |
| （5）その他  | なし           |

- |         |  |
|---------|--|
| 10 取り扱い | 試掘調査の結果を、令和元年11月22日付教文第08020号文書により回答した。遺構を確認したため、施主及び施工業者と計画変更協議を行い、工法変更（盛土工事追加）による住宅建築を行うこととなった。そこで、12月2日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、12月3日付教文第09002号文書により工事立会を指示した。 |
|---------|--|

しかし、令和2年3月に改めて工法変更（地盤改良）による住宅建築を行うと連絡があった。工法変更により遺跡の破壊が免れないこととなったため、4月24日付埋蔵文化財発掘の届出を受理し、4月28日付教文第01025号文書により工事着手前の発掘調査を指示した。記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなったのである。

なお、発掘調査の詳細については、『岩手県一関市埋蔵文化財発掘調査報告書第33集八丁館遺跡発掘調査報告書』（一関市教育委員会、令和4年3月）を参照していただきたい。



図36 八丁館試掘調査位置図  
(上が北、S=1:2500)



図37 八丁館トレンチ図  
(上が北、S=1:1000)



写真69 掘削状況



写真70 トレンチ1検出状況



写真71 トレンチ2検出状況



写真72 トレンチ3検出状況

## 抄 録

ふりがな	しないいせきしくつちょうさほうこくしょ							
書名	市内遺跡試掘調査報告書							
副書名	平成30年度から令和元年度まで							
巻次								
シリーズ名	岩手県一関市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第43集							
編著者名	菅原孝明							
編集機関	一関市教育委員会							
所在地	〒029-3105 一関市花泉町涌津字一ノ町29 TEL 0191-82-2242							
発行年月日	2025年3月24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きんけいじょう 金鶏城  くるわだて (曲館・ 西城・下 おりかべじょう 折壁城)	いちのせきし 一関市 室根 ちようおりかべ 町折壁 字 ひじりさわ 聖沢 18-1	03209	NF93- 0150	38° 56' 27"	141° 26' 29"	20180511	8 m <sup>2</sup>	物置設置
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
	城館跡	中世	溝	重機破片	遺構はGL-100cm 以下にあるため慎重 工事			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やぎしま 谷起島	いちのせきし はぎしろう 一関市 萩荘 あがやぎしま みなみ 字谷起島 南 かた 方 73	03209	NF95- 2381	38° 55' 27"	141° 5' 50"	20180619	約13 m <sup>2</sup>	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
	散布地	縄文、弥生	なし	近代磁器片	攪乱層からの出土 のため慎重工事			

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因					
		市町村	遺跡番号										
しんでん 新田	いちのせまし だいとう 一関市 大東 ちよう おきたあざしん 町 沖田字新 でん 田 50-4	03209	NF41- 2020	39° 3' 46"	141° 20' 15"	20180625	18 m <sup>2</sup>	個人住 宅					
									種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
									散布地	縄文	なし	なし	
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因					
市町村	遺跡番号												
おこぞて 猫館	いちのせまし だいとう 一関市 大東 ちよう おけいあざねこ 町 曾慶字猫 だて 館 69-3	03209	NF71- 1242	38° 59' 3"	141° 21' 45"	20180628	14 m <sup>2</sup>	個人住 宅					
									種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
									城館跡	中世、近世	ピット、土坑、溝	なし	発掘調査実施
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因					
市町村	遺跡番号												
くま だいら 熊の平	いちのせまし だいとう 一関市 大東 ちよう おおはらあざくま 町 大原字熊 の だいら ノ平 63-1 ほ か2筆	03209	NF52- 2372	39° 1' 51"	141° 25' 20"	20181126	34 m <sup>2</sup>	圃場整 備					
									種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
									集落跡	縄文、弥 生、古代	なし	なし	
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因					
市町村	遺跡番号												
はたけなか 4 畑 中 IV	いちのせまし だいとう 一関市 大東 ちよう おおはらあざほり 町 大原字堀 の うち ノ内 32	03209	NF62- 0254	39° 1' 27"	141° 24' 44"	20181126	36 m <sup>2</sup>	圃場整 備					
									種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
									散布地	縄文	なし	なし	

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
げんびけいびー 厳美溪 B	いちのせきし げんび 一関市 厳美 ちよう あびののくち 町 字樋ノ口 81-5	03209	NF94- 0225	38° 56' 45"	141° 2' 34"	20181210	11 m <sup>2</sup>	個人住 宅
		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
		散布地	縄文	なし	なし			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
		こまつのまく 小松楯 まていら 擬定地	いちのせきし はなしょう 一関市 萩荘 あざや ぬしな 字谷起島 南 かた 方 40-7	03209	NE95- 2351	38° 55' 30"	141° 5' 41"	20181210
種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項		
城館跡	古代			なし	なし			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
		たか とり じょう 鷹 鳥 城 おとこ まわ じょう (男 沢 城) 平 82	いちのせきし はなしょう 一関市 花泉 ちよう おいまつあざたて 町 老松字館 ひら 平 82	03209	OE38- 2186	38° 48' 52"	141° 12' 59"	20190121
種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項		
城館跡	中世			なし	なし			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
		もくき 舞草 こだいら	いちのせきし まいかわ 一関市 舞川 あざ おおだいら 字 太平 92-2	03209	NE95- 2351	38° 58' 36"	141° 10' 11"	20190508
種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項		
生産遺跡	近世			なし	なし			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
		とりはみま 鳥喰 II	いちのせきし せんまや 一関市 千蔵 ちよう きよたあざよう 町 清田字要 がい 害 58-1	03209	NF91- 2233	38° 47' 6"	141° 11' 46"	20190514 ～ 20190516
種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項		
散布地	縄文			なし	なし			

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみおりかべじょう 上折壁 城	いちのせきし ひとつね 一関市 室根 ちょう やごしあざせん 町 矢越字千 がりだ 刈田 51	03209	NE92- 1245	38° 55' 58"	141° 25' 33"	20190606	90 m <sup>2</sup>	個人住 宅
		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
		城館跡	中世、近世	柱穴、土杭	羽口、鉄滓、陶磁器 片	発掘調査を実施		
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
		いちのせきし じょう 一関 城 たかほりじょう (高崎城・ つりやまじょう 釣山城)	いちのせきし あざ 一関市 字 つりやま 釣山 1-9	03209	NE96- 2149	38° 55' 30"	141° 7' 46"	20190710 ～ 20190711
種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項		
城館跡	中世			柱穴、溝	なし	発掘調査を実施		
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
		うわた 宇和田	いちのせきし みじさわ 一関市 藤沢 ちょう ほろおあざ 町 保呂羽字 みねさわ 嶺沢 20-1	03209	OF21- 2396	38° 50' 25"	141° 22' 28"	20190725
種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項		
散布地	縄文			堅穴住居、溝、遺物包含層	縄文土器片	事業中止		
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
		ふかあしさわ I 深苔沢 I	いちのせきし せんまや 一関市 千厩 ちょう おくたまあざふか 町 奥玉字深 あしざわ 芦沢 45-1	03209	NF91- 0125	38° 56' 41"	141° 21' 21"	20190910
種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項		
散布地	縄文			なし	なし			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
		つり お じょう 釣尾 城 いちののじょう (市野々城)	いちのせきし はざしろう 一関市 萩荘 あざみなみさわ 字南沢 37- 20	03209	OE04- 2176	38° 53' 44"	141° 2' 4"	20190917
種別	主な時代			主な遺構	主な遺物	特記事項		
城館跡	中世			なし	なし			

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因			
		市町村	遺跡番号								
やすみ ば 休 場	いちのせきし ふじさわ 一関市 藤沢 ちよう おおかごあざおお 町 大籠字大 だいら 平 37	03209	0F31-	38° 49' 6"	141° 22' 46"	20191024	85 m <sup>2</sup>	太 陽 光 パ ネ ル 設 置			
			2330								
			種別						主な時代	主な遺構	主な遺物
散布地	縄文	なし	なし								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因			
はつ ちよう だて 八 丁 館 (が きゅう だて 臥 牛 館・ す るまわじよう 数流沢城)	いちのせきし だいてう 一関市 大東 ちよう すりまわあざたじ 町 摺沢字但 まさき 馬崎 64-8	03209	NF70-	38° 59' 43"	141° 19' 55"	20191120	22 m <sup>2</sup>	個 人 住 宅			
			0385								
			種別						主な時代	主な遺構	主な遺物
城館跡	中世	柱穴、溝	なし		発掘調査を実施						

岩手県一関市埋蔵文化財発掘調査報告書第 43 集

市内遺跡試掘調査報告書

—平成 30 年度から令和元年度まで—

発行年月日 令和 7 年 3 月 24 日

発行・編集 一関市教育委員会文化財課  
〒029-3105  
岩手県一関市花泉町涌津字一ノ町 29  
電話 0191-82-2242

印 刷 合同会社藤  
〒021-0061  
岩手県一関市山目字館 64-123  
電話 0191-34-7744